

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人山清福祉会		
事業所名	グループホームほほ笑み		
所在地	熊本県熊本市東区戸島西5丁目5番26号		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室は庭への出入りが自由な掃き出し窓を採用し、共有空間の天窗や広いウッドデッキと相まって開放感のある建物となっている。
 今年度は、9名の介護職員のうち1名が介護支援専門員を取得し、さらに3名が介護福祉士試験に挑戦する。多くの職員が常に向上心を持ち、日々ケアにあたっている。また資格取得に向けた講習等の受講がしやすいよう、個々の休み希望にはなるべく添えるよう配慮し、休みやすい雰囲気作りをしている。勤続年数が3年以上の職員が7名と顔ぶれが変わらず、利用者やご家族が安心してケアを受けることができている。また同一法人が運営する保育園が隣接にできたことで、今後子どもと交流する機会も増え、日常生活において良い刺激になるとと思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地や、スーパー等の近くにありながら、周囲に広い畑もある静かな環境に立地し、リビングや居室、陽当たりの良いベランダ等、住環境も整備されたホームである。介護度の高い利用者が多い為、活気があるようには感じられなかったが、個々の能力に応じた口腔体操、手足の運動などが毎日実施されており、レベル低下しないようなケアに取り組む姿勢が見られた。同敷地内に同法人の保育園が開設された事で、今後季節の行事を一緒に行ったり、相互訪問等で利用者の心のケアが期待できるのではないかとと思われる。又、認知症対応型通所介護事業(共用型)も導入される予定で、利用者との交流がよい刺激となって、暮らしにメリハリが持てるようなケアにも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。	「環境・愛情・清潔・安全」という分かり易い4つのワードを理念としている。落ち着いた自然環境と穏やかに暮らせる住環境も整えられている。職員は、利用者の介護度に合わせたケアを心掛けており、耳垢取りや爪切りにも気を配り、身体的な清潔保持にも努めている。又、移動や移乗等の安全面に十分配慮したケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また、地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。	「ささえりあ託麻」主催で、地域向けの「認知症」に関する勉強会に月3回、場所を提供している。又、校区の中学校からは「愛のフラワー便」と称した鉢植えの花が届けられ、校歌を披露する等の交流が持たれている。隣接の保育園児との「餅つき大会」は初めての試みだったが、利用者にもいつもと違った表情や笑顔が見られ、今後も交流の機会を増やしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症介護家族の会合場所として、当事業所の和室が活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故の報告や入退居の状況報告を主な議題として開催している。	委員は、自治会長・校区社協長・老人連合会長・町づくりの会会長・ささえりあ託麻職員から構成されており、加えて3家族の出席が得られている。新規事業参入や、職員の異動等についての報告・質疑や、消耗品の利用者負担等について市に問い合わせた結果等も出されている。	今後、地域との交流促進や防災避難訓練等、具体的な課題等をテーマとして検討するなど、地域と共にある施設を目指してより有意義な会議とするための工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センターの参加、事故発生時の連携はもちろん、必要に応じて市の担当者とも報告・連絡・相談・確認の作業を行っており、市町村と共にサービス向上に取り組む体制を整えている。	「認知症対応型通所介護事業」を開始するための相談や、利用者の個人負担となる消耗品の費用に関する問い合わせ・利用料金滞納・事故報告等運営上不明な点は、すぐに相談して回答を得るなど、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	介護度5の利用者が5名という現状であるが、立ち上がりや移動時、抑制的にならないような声かけを心掛け、注意深く見守りながらのケアに努めている。職員同志、気付きがあれば注意し合い、全職員が「身体拘束」はしないという共通認識が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特になし		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特になし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所の前に一度内容の説明を行い、入所日に再度の説明を行っている。これは、理解と納得を得られるよう十分な時間を確保し、一方的な説明にならないよう留意しているためである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示し、また、管理者も利用者の居室を訪ねて現状の把握に努めている。	家族から「足腰が弱くならないように運動させて欲しい」という要望を受けいれ、個別に対応している。又、月1回担当制で本人の暮らしぶりを写真と共に送付し、意見や要望を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員のスキルアップにつながる外部研修や資格取得に関する費用負担(合格の場合)と休みを優先的に設けている。日常ケアの気付きは「申し送りノート」に記載し、月1回の職員会議で話し合い、ケアの統一に繋げている。又、美容師の資格を持つ職員が利用者のカットをする等、特技がケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金等の制度の活用はもとより、各自が向上心を持って働けるよう社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会の出席だけでなく、独自に情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の見学時や利用申込書提出時に面談の時間を設け、現状とニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳み、お盆拭きやおしぼり作り等の日常の家事を一緒に行い、本人が介護される一方の立場におかれぬよう留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特になし		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特になし	家族や友人の訪問は丁寧に対応し、再訪を促すよう心掛けている。家族と外食に出かける利用者や友人からの電話の取次ぎ等、関係が途切れない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後にも、病院で行われるカンファレンスに参加して継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。	利用者の「帰りたい」のつぶやきや、落ち着いた様子を見極めて、本人の思いに寄り添えるよう職員同志で話し合っている。マンツーマンの入浴時は、家族との関係など本音が出やすく、思いや意向を把握する機会となっている。意思表示が困難な利用者もあり、これまでの生活歴や入居後の暮らしぶりから、利用者の喜びに繋がりそうなことを判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集によって、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報や家族からの情報を元に、概ね1ヶ月程度の状況把握期間を経て介護計画を作成している。	2人の介護計画作成担当者が、分担して9人の利用者を集团的に細かく観察する事で、本人のニーズに沿ったプラン作成が出来ている。その際、本人・家族・職員、場合によっては、主治医の意見も含めて情報収集に努め、プランに反映させる努力が見られた。半年に一度プランの見直しをしているが、大きな変化があった場合はその都度見直し、現状に即したプランとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特になし		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学校を招待した行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の協力医療機関往診を基本としているが、以前に受診していた病院や専門医等の受診希望があれば、当事業所が通院に係るすべてを行う形で支援している。	入居前のかかりつけ医を主治医としている利用者は1名であり、他の利用者はホームの協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回、定期往診で健康状態を把握。往診担当職員が、1か月の暮らしぶりや直近の健康状態を、往診予定日の前日にFAXで主治医に情報提供してスムーズな診療に努め、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の情報や気づきは、往診担当者や管理者からかかりつけ病院の看護師を通じて、医師の判断を仰ぐことができる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で開催されるカンファレンスには概ね出席しており、退院に向けた調整には積極的に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては、医療機関との連携に関する一般的な方針の説明を行っている。	「看取りはしない方針」で家族に伝えているが、開設8年の間には、医療機関と連携を図りながら可能な限りの手当てをし、ホームで看取った事例もある。	介護度の高い利用者が多く、今後看取りをする状況はあり得ると考えられる。家族の要望もあるとの事なので、看取りの方針や体制について、運営推進会議等にも提案し、ホーム全体で議論するのも良いのではないかと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特になし		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	スプリンクラー・消火器設置・職員連絡網等の防災体制は整えられている。年2回の避難訓練の内1回は消防署立ち合いのもと、利用者も参加して訓練が行われている。また、年に一度、「AED」の使い方も消防から指導を受けて緊急時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	テキストによる内部研修の機会に、人格の尊重とプライバシーについての教育を徹底している。	意思の疎通がうまくいかない利用者には特に排泄時の声掛けや、入浴時の羞恥心に配慮している。又、入浴時、希望によって同性介助で対応し、日常ケアにおいても利用者個々の人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクリエーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は原則的に各利用者が自由に選択したものを着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理前の下準備や、下膳後の片付けなどを入居者と一緒に行っている。	食事は外注となっており、業者が作成したメニューで、冷凍・冷蔵で調理済みの食事を、職員が解凍や暖めなおして、利用者の食事形態ごとに盛り付けている。利用者の嗜好が反映されていない状態で、家族が本人の好みの食事を持参するケースもある。	食事を楽しむ支援が弱いように思われた。職員が検食したり、週に1度でも利用者の嗜好を取り入れたメニューで職員が手作りし、一緒に食事を楽しむ事で、家庭的な雰囲気も増すのではないかと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特になし		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きの部分的な介助など、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて時間による誘導やポータブルトイレを活用などの手段を講じ、排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄が自立している人は一人で、他の利用者は紙おむつを使用している。定期的な誘導により、おむつ内排泄を少なくする事で、スムーズな排泄に繋げ、おむつ使用量を軽減にする努力が見られた。往診の医師から、「グループホームだからできる事」とのコメントも寄せられている。又、トイレの便座の後ろに背もたれを設置したり、足乗せ台も準備して、リラックスした状態での排泄が出来るような工夫も見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特になし		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。 可動式の浴槽やリフトの活用により、多様な入居者が安全で快適に入浴できるようになっている。	週2回、午後からの入浴となっている。7名がリフト浴でマンツーマン介助であるが、二人介助が必要な利用者もあり、入浴時の安全確保に配慮している。また、お湯は個々に入れ替え、清潔保持に努めている。長湯を好む利用者もあり、会話を楽しみながらの入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は基本的に自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭きなど、能力に応じた役割を分担したり、事業所内にて猫を飼育することで日常生活に楽しみと変化を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩をレクリエーションの一環として実施している。	健軍神社への初詣・自衛隊通りの花見・県庁のいちよう見物等、年に数回の外出支援は実施されているが、全体的な介護度が高くなっている現状では、積極的な外出支援ができていない状況である。個別に車椅子で、近くのショッピングセンターに出かけたり、家族の協力を得て外出・外泊支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特になし		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特になし		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窓、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計に加え、室内には観葉植物を飾ってある。また、和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。	全員が集まるリビングを中心に、周辺に熱帯魚の水槽・本棚等を配置。長い廊下には、壁掛け空気清浄器や太陽光発電パネルが掛けられている。居室に沿って伸びているベランダは陽当たりが良く、洗濯物が揺れていた。リビングの採光は、オレンジ色の穏やかな光で、落ち着いた雰囲気を出している。又、3匹の猫が自由に歩き回り、のんびりと温かい雰囲気に包まれた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある居室やフローリングの居室があり、掃き出し窓から中庭・ウッドデッキへ直接出られるように工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。	畳とフローリング併用の居室が2部屋。各居室にクローゼット・押入れ・空調・洗面台が備え付けられている。冷蔵庫・本人が使い慣れた整理ダンスや寝具の持ち込み・亡夫の写真と共に位牌が置かれた部屋もある。各居室とも陽当たりが良く、それぞれ自分の部屋として整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		